

## 2.4 情報インフラが支える新たな学びの創出

### 【概要】

倉敷市では、「食で育もう 元気な暮らし」の実現に向け、年齢(年代)ごとに食育推進の4つの柱を掲げ、それぞれを体系化した倉敷市食育推進計画を平成20年3月に策定しました。

この推進計画は、市民一人ひとりが食に関する正しい知識と食べることの大切さを理解し、健全な食生活がおかれるよう、策定したものです。

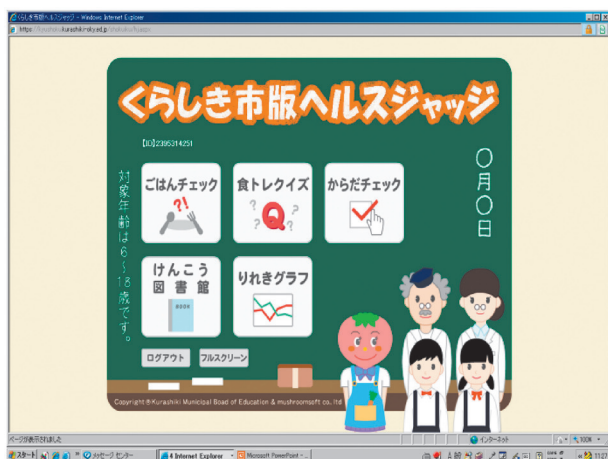
このたび、倉敷市が掲げる食育推進の4つの柱のひとつ「食の知識・体験」の分野の中で児童生徒に食の基礎を身につけることを目的に食育ソフト「くらしき市版ヘルスジャッジ」の活用事業を導入しました。

### 【コラム1】

#### ① 食育ソフト「くらしき市版ヘルスジャッジ」の活用について

「くらしき市版ヘルスジャッジ」は、自分の摂取した一日分、もしくは一食分の食事を入力することで食事診断をすることができるソフトです。

メニュー画面



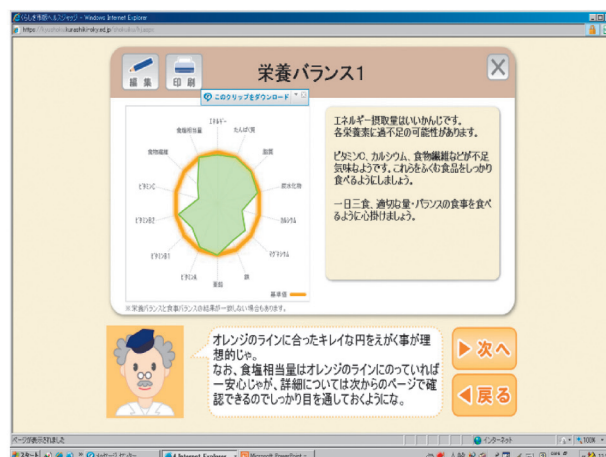
料理を選択する画面



食事バランスガイドによる判定



栄養バランス



(1) 玉島南小学校での取組

倉敷市立玉島南小学校では、担任と学校栄養職員が連携して、平成23年度より家庭科・学級活動の授業で食育ソフト「くらしき市版ヘルスジャッジ」を活用しました。

【授業等の内容】

平成23年11月 6年 家庭科 「楽しい食事をくふうしよう」

平成24年 2月 5年 学級活動 「朝食について考えよう」

【今年度の予定】

平成24年 5月 6年 家庭科 「生活を見直そう」

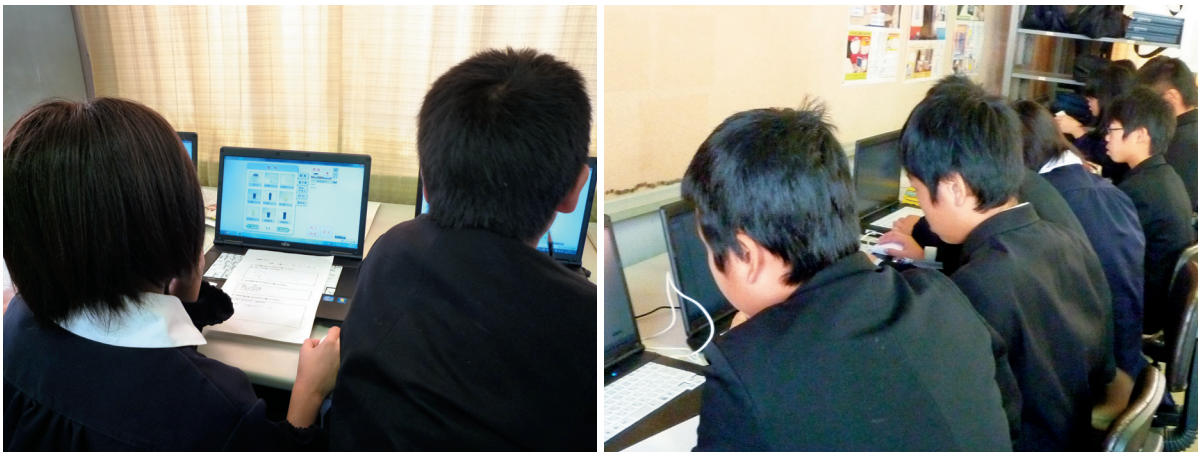
平成24年 9月 5年 学級活動 「朝食について考えよう」

平成24年12月 6年 家庭科 「楽しい食事をくふうしよう」

家庭科では、事前学習として、食育ソフトを使って自分の食事を診断することで、食事について考えるきっかけづくりを行いました。

また、学級活動では、学校全体で取組んでいる「朝食の大切さ」について学ぶ際に、食育ソフトを使って自分の朝食のバランスを考えました。

授業の様子



(1) 授業を実施して

授業実践後に児童にアンケートを実施したところ、食育ソフトを使用して「よかった」と答えた児童は76%であり、「そうでもない」は24%でした。

「使用してよかった」と答えた理由

「食事のバランスがとれていないことがよく分かった」

「自分に足りない食材が分かった」

「おもしろかった」など

アンケートの結果から、食育ソフトは児童にとって使用しやすく、自分自身の食事のバランスについて、よく理解できたと好評でした。

授業を実施した担任からの感想

「児童一人ひとりの食事に関する傾向がわかり、今後の指導に役立てることができると思う」

2. 先進的な事例紹介

「児童が入力をする際に児童自身が食べた食事を入力したので、食事状況がわかって参考になった。」  
 「入力結果からビタミン類が不足の児童が多かったので、調理実習に野菜いためをとり入れた。」

授業後の児童の感想

「食物せんいが足りないので、野菜を食べようと思った。」  
 「ビタミン・食物せんいが少なかったので、副菜の野菜類・いも類・きのこ類をもっと食べようと思う。」  
 「カルシウムが足りないのでお茶より牛乳を飲もう。」など

児童は、食育ソフトを活用することで、自分の食事状況を知り、バランスよく食べることの大切さについて知ることができます。5年時、6年時で実施することで、自分の食事の変化に気づき、これからの食生活に生かしていこうという意識づけにもなっています。

(2) 今後の展開

食育ソフトで食事診断をすることは、自分の食事を振り返るきっかけになっていますが、その回数を重ねることで、バランスのとれた食事の指導効果が高められると考えられます。

食生活は、生涯にわたっているものであり、食生活の改善には時間がかかります。そこで、小学校のみではなく、中学校においても小学校で入力した自分の食生活を振り返りながら授業を実施することで、より効果的な授業になることが期待できます。

② 食育サイトを活用した家庭への情報発信について

倉敷市の食育サイトでは、各学校の日々の給食情報を見ることができます。

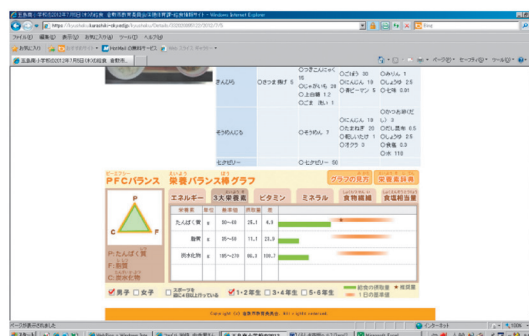
食育サイトのトップページ

一ヶ月の献立予定表



一日の献立と写真

栄養バランス棒グラフ





## 特集 4

### あなたが住む街の学校教育ICTへの取組

#### (1) 市内小・中学校の給食献立の公開

倉敷市では、学校給食システムで市内の小・中学校の給食管理をしています。その献立データを活用して、食育サイトを作成し、すべての学校の献立情報を公開しています。各学校では、日々の給食の写真を撮影して食育サイトに掲載しています。

また、平成23年度からは、日本人の食事摂取基準に準じたグラフを作成し、自分の1日に必要なエネルギーや栄養素を知ることができるようにしました。この情報は、各家庭で見ることができます。

#### (2) 家庭への普及

食育サイトには、学校給食や小・中学生に必要な栄養についての情報が掲載しており、これを活用することで、家庭内での食育を推進したいと考えています。

#### 【今後の展開】

食育ソフトは、「市内小・中学校で継続的に使用することで、食の知識が定着すること」を、食育サイトは、「学校と家庭が連携して食育を推進すること」を目指しています。

今後も、市民の生涯にわたる健康づくりのために、学校から様々な形の食育を発信していきます。

#### 【事業】

食育ソフト及び食育サイトによる食育普及事業(岡山県倉敷市)

## 【コラム2】

## 「まず試してみて、確かめてみて」

岡山県倉敷市における、昨年秋号の「あなたが住む街の学校教育ICTへの取組 2先進的な事例紹介」の続編として、教室のICT環境の整備をご紹介します。

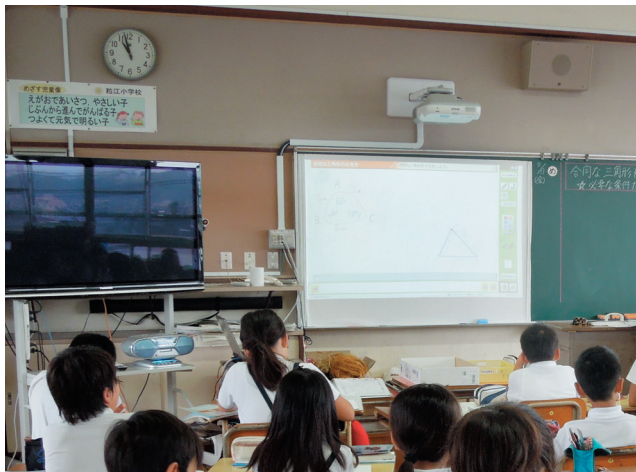
学校園事務ネットワークシステムとして導入している学齢簿や学校給食システムは、各学校のPCと汎用コンピュータを公衆回線で接続する環境で使用しており、この環境下で教育委員会と学校間のデータ共有が平成元年に始まりました。

その後は、昨年秋号のような経過を辿ってネットワーク環境や機器整備が行われています。

この間、「まず試してみて、確かめてみて」という方針で、積極的に実証実験等にも取組んで、教育にかかわる職員の「夢」を実現しようと努力しています。

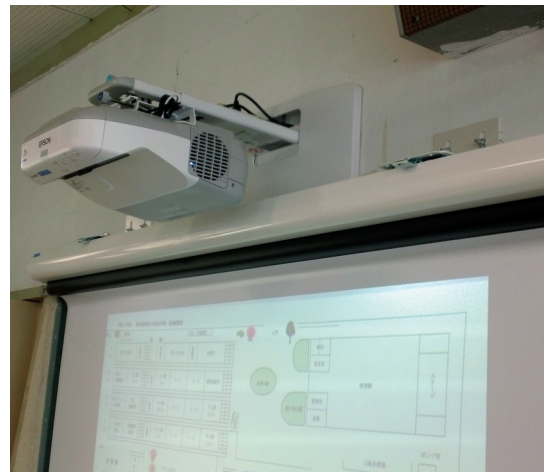
今年度は全中学校の普通教室へ「電子黒板機能付き壁掛け型超短焦点型プロジェクター（以下超短焦点型プロジェクター）」と、黒板と一体化する「壁掛け型スプリング巻き上げ式マグネットスクリーン」の導入を8月に行い、9月よりICT環境の利用がはじまっています。また、NTTグループ主催の実証実験である「教育スクウェア×ICT」フィールドトライアルに小学校1校、中学校1校が参加して、1人1台情報端末による学校教育と家庭学習との連携のあり方について研究しています。

超短焦点型プロジェクターを利用した授業風景

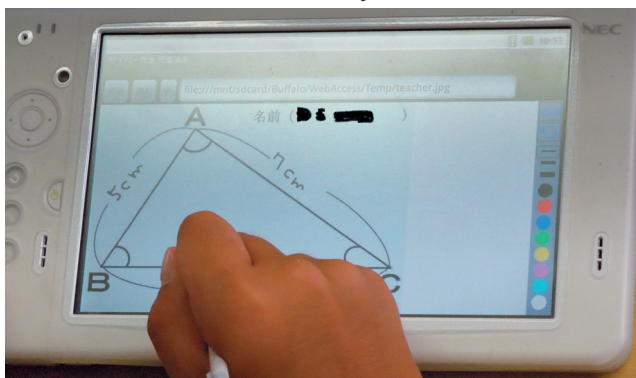


超短焦点型プロジェクターと

スプリング巻き上げ式マグネットスクリーン



Android タブレット端末と Synchronized Browser サイバー先生を利用した授業風景





## 特集 4

### あなたが住む街の学校教育ICTへの取組

(問い合わせ先)

【食育に関しては】

倉敷市教育委員会 保健体育課

TEL:086-426-3835

なお、市内の学校毎の給食の献立表や毎日の盛付写真は、ホームページアドレス

<https://kyushoku.kurashiki-oky.ed.jp/kyushoku/>をご覧ください。

【教育スタウェア×ICT】については、<http://www.ntt-edu.com/>をご覧ください。

【その他に関しては】

倉敷市企画財政局企画財政部

情報政策課 TEL:086-426-3211

